

赤林伸一

新潟の住まいは夏に最適

□2□

昨年は猛暑で日本各地で最高気温を更新しました。吉田兼好の書いた徒然草には「家は夏を旨とつくるべし、夏の暑さは耐え難き」とあり、日本の気候の特徴は夏の高温多湿といわれています。

住宅の形や窓の配置などは地方独特の気候や風土に大きく影響されます。例えば、砂漠の住宅は石造りで窓が小さく、日光をなるべく遮るように造られています。北欧や北米などの寒冷地の住宅は冬に熱が逃げないように厚い壁に小さな窓が特徴です。

図は世界の主要な都市の夏の気温と湿度の関係を示したものです。右上は高温多湿で、左下は

低温少湿です。図の中のハッチしてある部分の人が快適であると感じる範囲ですが、日本の都市はこの範囲から大きく外れていて、カビが発生しやすい、すこしくい気候です。一方ヨーロッパの各都市は乾燥しており、気温の割には快適であることが分かります。

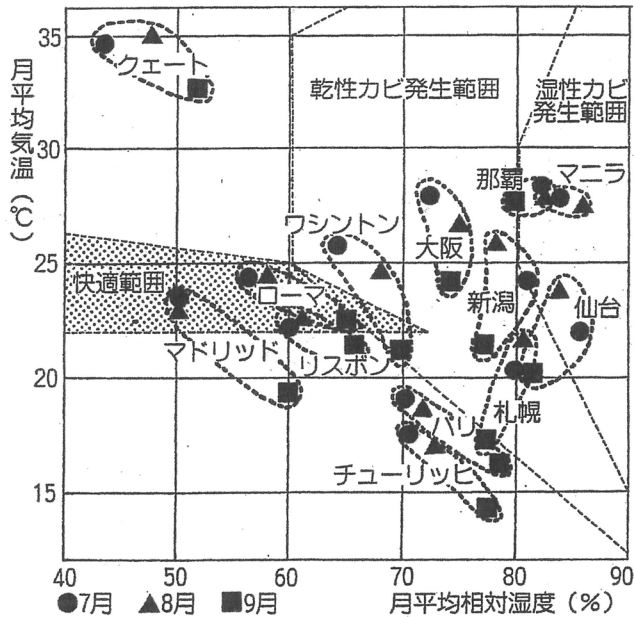
いゆる和風住宅は蒸し暑い夏の気候に対応するために、風通しが良い開放型の住宅は九州や近畿地方など日本の中世の時代に繁栄した都市です。このような住宅を開放型住宅と呼んでいます。夏は水を打った庭を通して心地よい風が吹き込み、風鈴が鳴って涼しさをより一層引き立てていました。

これらの住宅様式が徐々に寒冷地である北陸や東北地方に広がってきたものです。冷房設備の無い時代九州や近畿地方の夏の暑さは耐え難いものであったでしょう。冷房設備に比較して暖房設備の歴史は古く、縄

文時代から人は火を使う生活をしていました。ですから、冬の寒さは火鉢や囲炉裏のような貧弱なもので、少しでも夏を涼しく過ごすことは、先人の知恵の一つであったのでしよう。ヨーロッパでは夏は比較的すこしく、むしろ冬の寒さに対応する必要があるため、暖房設備の歴史は古く、縄

和風のルーツ

高温多湿な夏に対応



備が発達し、窓が小さくレンガや石造りの重厚な閉鎖型住宅が発達しました。北米のカナダなどの寒冷地でも2×4工法などの閉鎖型住宅が建設されており、いゆる高温・高断熱・高気密住宅が普及しています。

日本でも北海道では冬の寒さが深刻ですから、戦後間もないころから断熱・気密化が推奨されてきました。ところが、この断熱・気密化が住宅に新たな問題を引き起す原因となったのです。
(新潟大学工学部助教 授・専門は住宅の居住環境性能評価)